

シンポジウム

都市論／空間論の最前線

— E・ソジャを招聘して —

1990年以降の空間論／都市論を牽引しつづける地理学者の一人として、エドワード・W・ソジャ教授（カリフォルニア大学ロサンゼルス校）の名を挙げることができる。ソジャ教授にはさまざまな分野で世界的な注目を集めた三部作“*Postmodern Geographies*”（Verso, 1989）, “*Thirdspace*”（Blackwell, 1996）, “*Postmetropolis*”（Blackwell, 2000）があり、このうち第一作が『ポストモダン地理学—批判的社会理論の空間的位相—』（青土社, 2003年）として邦訳された。この邦訳には、加藤政洋氏（流通科学大, 大阪市立大院 OB）, 長尾謙吉氏（大阪市立大）, 大城直樹氏（神戸大, 大阪市立大院 OB）をはじめ、COE関係者である水内俊雄氏と西部均氏（COE 研究員）が共訳者として関わった。この出版を機に、大阪市立大学都市文化研究センターCOEプロジェクトでは、2003年夏に同教授の招聘を企画した。東京での「第3回東アジアオルタナティブ地理学会議 EARCAG」（2003年8月5日, 国立オリンピック記念青少年センター）での全体会議を後援し、大阪でのCOE特別講演会（B班による第13回研究会, 8月11日, あべのメディックス）を主催した。

「Ed Soja meets Japanese sociologists and geographers」と題された東京の全体会議では、日本でいち早くソジャ教授の空間論に注目した都市社会学者の吉見俊哉氏（東京大学）, ならびにソジャ教授と親交があり産業集積論や大都市論にも詳しい長尾謙吉氏をコメンテーターに迎え、ポストモダニズムの影響を受けた批判的空間論の展開, 空間論とメディア研究の節合が押し開く新たな可能性, グローバル化に伴う都市再編とそれを検証するフィールドとしてのロサンゼルス的一般性と特殊性などが議論された。

さらに、「『ポストモダン地理学』再訪」と題された大阪の講演会では、加藤政洋氏による日本における空間論の受容とその後の展開が紹介されたのに続き、ソジャ教授はこれまでの自身の研究履歴を参照しながら、『ポストモダン地理学』の執筆へといたる問題意識の変遷を披露、さらに“*Postmetropolis*”で展開される都市の祖型（プロトタイプ）に関する議論にも言及され、聴衆を魅了した。

本号では、この一連の企画の成果として、加藤政洋氏によるソジャ教授の都市論に関する展望が、当日の発表を大きく膨らませて執筆され、その次にソジャ教授による大阪講演の内容がほぼそのまま邦訳、掲載されている。なお、ソジャ教授の英語での講演の日本語への文章起こしについては、長尾由美子氏に全面的にお世話になったこと、あつくお礼申し上げる次第である。

（編集委員会）